

放送ライブラリー クイズシート 答えと解説

◆放送お茶の間物語

Q1：1925年3月のラジオ放送開始時の聴取契約数3500件は、10月末には10万件、1年5か月後の翌1926年8月には33万件に増加。ラジオが人々の生活にあつという間に広まったことが分かる。

答え：3500件→33万件

Q2：1925年当時、1か月分のラジオ聴取料は、朝日新聞1か月分の購読料と同じ1円。新聞と放送という2大メディアが、同料金だったのは興味深い。ちなみに、B)バス料金は10銭(1円の1/10)、C)国家公務員の初任給は70円～100円程度。



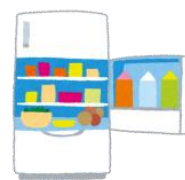
答え：A)新聞の購読料

Q3：テレビ放送が始まると、人々は繁華街に置かれた街頭テレビで、大相撲や野球中継、プロレス中継などに熱狂した。「放送お茶の間物語」の街頭テレビに映っているのは、得意技「空手チョップ」で大人気だったプロレスラー・力道山。



答え：プロレス中継

Q4：日本経済が急成長を始めた1950年代後半は、白黒テレビ、洗濯機、冷蔵庫の3つの家電が「三種の神器」と呼ばれ、庶民の憧れだった。1960年代になると、カラーテレビ、カー(自動車)、クーラーの「3C」が新・三種の神器となる。「三種の神器」「新・三種の神器」の両方にテレビが入っている。



答え：C)洗濯機、E)冷蔵庫

◆放送のしくみ

Q5：番組は、アナウンサーなど出演者がいるスタジオの映像や、現場からの中継、VTR(録画)など、様々な要素で構成されている。これらを1本の番組にまとめているのがサブ(副調整室)。マスター(主調整室)は、いくつものサブから情報が集まる放送局の心臓部。その日に放送される番組やCMの順番に間違いがないように管理している。ここから電波が電波塔に送られ、各家庭のテレビに映される。

答え：①スタジオ → ②サブ → ③マスター → ④電波塔 → 家

Q6：画面に映るアナウンサーやリポーター以外にも、放送局では様々な役割の人が働いている。この他にもカメラマン、音声、照明など多くの専門的な仕事があり、チームワークがとても大切。



答え：A)スタジオや中継現場で出演者にディレクターからの指示を伝えたり、番組をスムーズに進行させるための準備をする：フロアディレクター

B)タイトルや出演者などのテロップ、ビデオ、写真などを、放送の順番に従って用意する：映像素材担当

C)番組の企画を立てたり、予算管理や出演者の調整をする、番組の最高責任者：プロデューサー

D)取材するニュースを決めて記者に指示したり、集まったニュースを放送する順番を決める：編集責任者

E)原稿や映像を準備したり、フロアディレクターや中継現場に指示を出して番組を進める：ディレクター

F)何台もあるカメラや音声、照明などを担当する技術スタッフの責任者：テクニカルディレクター

◆BL ニューススタジオ

Q7：青いのに「黒マキー」?…正しくは「クロマ・キー(Chroma key)」と言って、背景の壁に別の映像をはめ込む技術。 **答え**：C)クロマキー

◆放送クロニクルウォール

Q8：1926年、27歳の高柳健次郎博士がテレビジョン装置を開発、ブラウン管に映像を映し出す実験に世界で初めて成功した。ここから日本のテレビの歴史がスタートする。この時に使われた映像は、「いろは」の最初の文字「イ」。

答え：「いろは」の最初の文字だったから

Q9：天皇みずから国民に終戦を知らせたのが玉音放送。「終戦の詔勅」を読み上げて録音したものを、1945年8月15日の正午にラジオで放送した。



答え：玉音放送

Q10：1953年の放送開始時のテレビの値段は、大卒初任給5000円に対し1台20万円という非常に高価なもの。なんと月給の40か月分!



個人で所有できた人は少なかった。

答え：C)テレビの値段が高かった

Q11：VTRが普及するまでのテレビは生番組が主で、ニュースだけでなくドラマも生放送だった。音声や映像を記録できるVTRを使用することで、生ドラマでは難しかった様々な映像表現が可能になった。「私は貝になりたい」は、戦犯として死刑を宣告された男の悲劇を描き、テレビ史上に残る名作として名高い。

答え：私は貝になりたい

Q12：白黒だったテレビがカラー化されたのは1960年。1964年の東京オリンピックの頃にはカラー化が進み、開始から11年後の1971年にはすべての番組がカラーになった。



答え：1971年

Q13：1963年11月23日、日米初の太平洋横断衛星中継の日、日本に向けて挨拶をする予定だったケネディ大統領が暗殺されてしまった。日本へは、急遽この事件を知らせるニュースに切り替わった。

答え：B)大統領が暗殺された



Q14：関東地方のテレビ電波は、1958年に開業した東京タワー(333m)から送信していたが、都内に200メートルを超える高層ビルが立ち並びにつれ、電波の届きにくい場所が増えたため、600m級の電波塔が必要になった。東京スカイツリーは、自立式電波塔としては世界一の高さ634mを誇る。

答え：200メートルを超えるビルが増え、電波の届きにくい場所が増えたから。

◆テープからディスクへ

Q15：正式名称は、「373型ダブルボタンカーボンマイクロフォン」。1925年、日本最初のラジオ放送にも、これが使われた。

答え：B)マイク

Q16：紙で作った円筒に蝋を塗って溝を刻み、音や声を記録する録音機「蝋管(ワックス・シリンダー)」は、発明王トーマス・アルバ・エジソンの発明品のひとつ。



答え：エジソン